

音 楽

児童生徒が音楽活動によって生まれる楽しさや喜びを実感する授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

- ① 育成を目指す資質・能力を明確にし、思考・判断のよりどころとなる、音楽を形づくっている主要な要素を焦点化した授業を構想する。
- ② 児童生徒の実態把握と十分な教材研究に基づいた題材を構想する。また、ICTを効果的に活用するなどして学習過程の充実を図る。
- ③ 児童生徒が音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値を考えたりすることができ、他者と協働しながら音楽活動と言語活動を行き来する場面を設定する。
- ④ 児童生徒が曲の特徴を捉えることができるよう、聴覚だけでなく、視覚を働かせたり、体を動かしたりする活動をねらいに応じて設定する。
- ⑤ 観点別の学習状況について、児童生徒が様々な音楽表現を試行錯誤している様子なども把握した上で、評価を行う。

資質・能力の育成に向け、鑑賞に関わる音楽のよさや美しさを味わって聴くための学習の例

中学校第3学年

題材名「世界の様々な合唱の特徴をつかみ、そのよさや美しさを味わおう」
(B鑑賞)

◇題材の目標（一部）

世界の様々な合唱の音色、*テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものとのかかわりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価と根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

〔思考力、判断力、表現力等〕

*テクスチュア

音と音とが同じ時間軸上で垂直に関わったり、時間の流れの中で水平的に関わったりして、織物の縦糸と横糸のような様相で様々な音の織りなす状態が生まれる。このような、音楽における音や声部の多様な関わり合いを、テクスチュアという。

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編 p32』

◇題材の主な学習活動（全3時間）

〔第1時〕

世界の様々な合唱曲の音源を聴いたり、合唱曲の背景となる文化や歴史について、映像資料を視聴したりして、なぜこのような特徴の音楽が生まれたか考える。

〔第2時〕（本時）

世界の様々な合唱曲の音源や参考となる映像資料などから、聴き取ったことや感じ取ったことを1人1台端末等にまとめる。

〔第3時〕

これまで学習したことを踏まえ、曲の魅力について、音楽の特徴や背景などと関連付けながら、批評文として自分の考えを書く。

◇本時のねらい（2／3）

世界の様々な合唱曲の音色、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものとのかかわりについて考えることができる。

◇学習活動

- 1 世界の様々な合唱曲の音源や映像資料などから、聴き取ったことや感じ取ったことを1人1台端末等に記録する。

S1：女性が低い音域で歌っているので、暗く感じる。

S2：教会で歌っているのだから、お祈りのようだ。

- 2 音楽の特徴と合唱曲の背景となる文化や歴史との関わりを視点として、音楽表現の固有性について自分の考えをまとめる。

S1：〇〇国に昔から伝わる声の重ね方や歌声から、厳しい自然環境で生活する人たちの力強さが感じられました。

- 3 全体で考えを発表し合い、再度音楽を聴きながら、音楽の多様性について、お互いの考えを確認する。

T：自分が気になる部分を譜面を見ながら繰り返し聴くなどして、自分の考えをまとめましょう。

S1：同じ高さの音程で力強く歌う部分から、自分たちの思いを表現していることは、どの国にも共通していると思いました。

S2：各国の人たちが、それぞれの歌を昔から歌い続けているのは、自分たちの文化を大切にしているからだと思いました。

T：友達のことを通して、共通点に気付くことができましたね。それでは、違いを感じた部分（相違点）はありましたか。

- 4 本時の振り返りを1人1台端末等に記録する。

十分な教材研究をした上で準備した音源や映像資料を、生徒が1人1台端末で視聴できるようにします。②

生徒が必要に応じて、合唱曲等しるしを聴いたり、映像資料から音楽の背景となる情報を得たりすることで、音楽の特色を捉えられます。①

教師が合唱の音源や音の重なり、曲の構成などについて、生徒が「よいたきり」などと感じたり、実際に聴いたりするなど、必要な指示をします。④

生徒同士が意見を交換する場面を設定し、音楽のよさや美しさを味わうことができます。③

生徒の学習状況に合わせ、スモールステップで理解を促したり、他者の意見を聞き取り入れたりします。⑤